



# 学校だより かけ橋

2015. 3. 13  
No. 27

パート IV

横須賀市立汐入小学校 校長室

元気でやりぬく子  
すすんで学ぶ子  
思いやりのある子

卒業式に向けて、学校内の掲示物も着々と準備が整ってきました。前号では、体育館に飾られた各学年のパネルを紹介しましたが、今回は、計画委員のパネルをご紹介します。



計画委員会が中心に作成しました。

### 【おめでとうパネル】

在校生一人ひとりの顔が貼ってあります。

誰の顔かわかりますか？

昇降口に飾ってあります。

### 【ありがとうパネル】

在校生からのメッセージが貼ってあります。桜の花びら、校舎の窓、雲、川魚、野原、空を舞う蝶に、一人ひとりのメッセージが書かれています。保健室前に飾ってあります。



## 子どもの可能性

卒業式の練習が始まりました。汐入小は、1年生から6年生まで全校児童が出席します。1年生にとっては、1時間近く儀式的緊張感の中にいるので大変です。



しかし、何度か練習を繰り返していくうちに、ちゃんとできるようになります。

ひょっとすると、「これは、子どもには無理。」「ここまでやらせるのはかわいそう。」といった大人の意識が、子どもの可能性を狭めているのかもしれませんが。1年生の成長していく姿を見ていて、そんなことを考えさせられました。

## 「インクルーシブ教育」って何???

神奈川県教委では、このことについて、以下のように述べています。

今後、共生社会の実現に向け、できるだけすべての子どもが同じ場で共に育つことをめざすインクルーシブ教育を推進することが求められます。

障害の有無にかかわらず、集団の中でお互いを理解させながら社会性や思いやりの心をはぐくむことや、誰もが相互に人格と個性を尊重し、認め合う社会性をはぐくむことが重要です。

子ども同士が互いに学び合う「授業づくり」や集団の中の多様性を前提とした「学級づくり」、チームで支援できる「学校づくり」、子どもの成長を支える「地域連携づくり」の工夫と充実が求められています。

汐入小には、「しおかぜ学級」があります。上記の考え方に従って、できるだけ交流級の子どもたちと一緒に、学習したり、生活したりする時間を取っています。そういった取り組みを通して、周りの子どもたちは、みんな同じ社会で生きている一員だと感じていて、人に対しての優しさや思いやりの心が育まれています。